

特集 災害について考える②

やはり予知は難しい!! だからこそ

大地震に備えよう! 何が起るの? どう備えたらいいの?

地震発生 あなたの家庭は大丈夫?

1 自分の身を守るには?

家具などが倒れてケガをしないよう、壁に固定するなど転倒防止をしておこう。

意外に重要!! 地震の時、自動的にブレーカーが落ちて電気を遮断し、電熱機器による出火等を防ぐ感震ブレーカーの設置

2 家族との連絡は?

最大95%の通信規制も! どうしたら? ① 連絡方法や集合場所をあらかじめ家族で話し合おう ② 災害用伝言ダイヤル「171」を使い連絡をとり合う。使い方を学んでおこう

3 避難のために何が必要?

防災マップやハザードマップなどで、避難場所や避難するルートを確認しておく。非常持出袋(非常食、水、医療品、衣類など)を持ち出しやすい場所に用意しておく。

4 自宅の備えは?

早くて3日後、それまで物資は届かない ほかの地域から送られる救援物資が届くまで、早くても3日はかかる想定されます。そのため、その間は自宅にあるもので乗り切る必要があります。だからこそ、家庭で最低3日間、できれば7日間過ごせる備えが必要です。

5 水、トイレが使えない?

52%の世帯で断水、40%の世帯でトイレ不能 蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水道水。しかし大地震が起きると市内約52%の世帯で断水します。水さえあれば数日間生き延びることができるといわれ、災害時は何よりも水は大事なものです。

生きる基本となるトイレ。自宅トイレを活用 ① 便座を上げてポリ袋をかぶせる ② 便座を下げてもう1枚、ポリ袋をかぶせ、二重にする ③ ちぎった新聞紙をポリ袋に敷きつめる ④ 用を足して、上のポリ袋だけ取り出す 防災スプレーがあれば、なおGOOD

このような備えを行えば他にもこんなメリットが。 ① 家庭備蓄が充実している家庭が増えると、結果的に他の避難者や避難所への負担が減るため、家庭備蓄は地域貢献に繋がります。 ② 備える事で地震に対する心構えができて、いざという時にパニックにならず冷静に動ける確率が増えます。

さあ、今すぐ備えよう!!

特集 災害について考える①

頼りになるぞ 子どもたち

日本PTA全国研究大会仙台大会からの学びを通じて

Table with 2 columns: 教育段階 (高等学校, 中学校, 小学校) and 要件 (Safety, Disaster Preparedness, etc.)

東日本大震災の際、自らの身を守る「自助」に留まらず、周囲の被災者を支援する「共助」へと踏み出した子どもたちの姿がありました。...

事例1 子どもたちを元気づける子どもたち 右巻市ジュニアリーダーサークル「ぴろっぴ」

事例2 仮設住宅に元気を届ける小学生 仙台市立吉成小学校

事例3 震災の経験を未来に生かす 仙台市立高砂中学校

事例4 将来の避難所運営リーダーの育成 富谷市立成田中学校

被災地を視察して 日本PTA全国研究大会仙台大会2日目の午後、東日本大震災の被災地を視察した。震災発生から6年半が経ち、被災地は、沿岸部ではそこに町があったとは到底想像できない荒涼とした土地が広がり、生い茂った草の隙間にかすかに見える残された家屋の基礎部分に、そこに生活があったことをようやく認識させられ、あまりの変貌ぶりに驚きと悲しみを覚え、しばらく言葉が失いました。...

薬物の乱用ダメ絶対! 覚醒剤や麻薬、大麻、危険ドラッグなどの薬物の乱用は、あなたの健康、あなたの周りの人々に計り知れない害悪をもたらします。絶対に使わないでください。(薬物乱用防止啓発)